

— お互い初対面なんです
ね。

岡部 「探偵! ナイトスクープ」の楽屋でも「今日のネタはどうだ」とか全体的な打ち合わせをしないまま収録に入り、テレビを見ては皆さんと共に笑い、共に泣いて、番組作りをしていました。実際に人に会って見聞きすることが一番の情報源なんです。向吉先生の工房を見学させていただき、昨今の仏像ブームではとらえきれない伝統工芸の世界の奥深さを知られました。

向吉 今日は東京から出向いていただき感謝しています。深夜枠にもかかわらず、平均視聴率二〇%台の番組の要となるアシスタントを二十一年務められた岡部さんは、大阪の人と勘違いされるほど関西の有名な人です。工房のスタッフも岡部さんの来訪を心待ちにしています。

— まもなく日本橋三越で一門の展覧会が開かれますね。

岡部 私たちの世界では、佐藤玄々さんが彫刻した破天荒で巨大な「天女像」が一階ホールに屹立(きつりつ)している日本橋三越本店で本のサイン会をする、一人前として扱ってもらえます。

向吉 佐藤玄々は近代以降の日本の彫刻界で最も優れた彫刻家の一人です。あの天女像は十年の歳月をかけて制作した畢生(ひっせい)の大作であり、玄々はこの作品の完成を見た三年後の昭和三十八年に京都の妙心寺で七十五歳で亡くなります。近代以降に作られた木彫作品の中で最大級の作品で、天平時代の

の幻影を感じさせる彩色豊かな玄々の最高傑作です。玄々は現代の狭量な芸術観に納まらない人で、そこに私は魅力を感じています。

日本橋三越でこれまで仏像と仏画の展覧会を五回開きました。一門展は初めてです。一人目の弟子を迎えてから十八年が過ぎました。まだ稚拙に思える部分もありますが、温かい気持ちで見てもえれば幸いです。

岡部 仏師を志したのはいつからですか。

向吉 仏像彫刻や欄間制作に打ち込んでいる父の背中を幼少時から見ていました。仏師になると決意したのは中学生になった時です。私は五人兄弟の長男でしたが、彫るのは下手な方でした。しかし、兄弟の中で仏師になるのを許されたのは私だけでした。父の下で過ごした最後の一年は、一日十六時間彫って平気でした。長時間坐ってられるところを父は見ていたようです。

— 家の仕事は継がず、松久師の門をたたかれます。

向吉 鹿兒島では仏像彫刻の仕事がなかったからです。高校二年の時、私が試作した仏像と仏画百点を携って、父と共に京都の松久両先生の「卒業してから来なさい」の一言で、翌年、内弟子になりました。

岡部 独り立ちするのにどれくらいの修業を積まれましたか。

向吉 その当時、松久先生の工房は弟子をたくさん抱えていたので、十年をメドにされていても平気でした。長時間坐ってあつて遅い方でした。

— その間、大変苦労された。

向吉 内弟子になって二年後、父が心不全で倒れ、半身不随になりました。悪いことは重なるもので、欄間の産地は生産コストの安い台湾・中国に奪われ、父の欄間工房は倒産。工房の処分と父の介護費用で借金に追われるようになり、絶望的な状況に陥った時に救いの手を差し伸べてくださったのが、松久両先生です。そのご恩

人のご縁に恵まれて

10~23日 東京・日本橋三越で「あさば会」新作発表会

は一生忘れられません。

岡部 「私の彫刻は櫛、楠などの木材を作品によって選び、彩色や鍍金を施し、ひとつの世界を創り出すこと」と先生の本に書かれています。工房での繊細な工法を拝見して、ここは仏さまの世界だと思いました。

— 松久門下で大阪を拠点にされたのは向吉さんだけですね。

向吉 家内の里が大阪だったからです。大阪は日本有数の商都ですが、京都のように各宗派の本山が集中していないので、仏像彫刻の需要に関しては京都にはるかに及びません。そこで百貨店の美術画廊に向けての需要開拓に乗りだしてみました。松久両先生が唯一、やり残したところでありました。しかし百貨店の美術画廊は信仰の対象である仏像を展示する慣習はなく、最初は動物や人間の童の木彫の展示から始めました。仏像彫刻と併せた展示内容になったのはその後のことです。

— 人の縁に恵まれたんです。

向吉 故郷が鹿兒島でよかったのは県人会の存在です。京セラの稲盛和夫名誉会長も鹿兒島出身。県人会の応援も積極的で、その恩恵にあずかっていました。



仏師 向吉 悠睦さん



タレント・エッセイスト 岡部 まりさん

して、選挙に出馬することになりました。

日本人は上の人たちがなかなか卒業しないじゃないですか。そこに今の少子高齢化のいびつさがあります。人間には折り返しの時点があり、その時はすごく大変なんです。そこをあいまいにしているのが、今の日本の社会ではないですか。タレントとして三十年やってきたので、世の中の新しい公共づくりの方面に興味が高まっています。ただ世の中、そんなに甘いものではないんです。今回の選挙戦で全力を注いでしまいましたので、次の選挙は考えられませんが、逆に次はないんです。ゼロからの出発です。

工房で熱心に見学する 岡部さん

岡部 仏師は日本に何人おられますか。

向吉 約四十人でしょう。各々の工房の弟子の数を合わせると二百人余りになります。

岡部 仏像を彫っている時、無の境地になることがありますか。

向吉 頭で考えるより手がひたりに動いているという瞬間があります。手がすべてやってくのではなく、頭でまとめて一つの作品を仕上げていくこと

に違いはないのですが、まるで神がささやいているような感覚になる時があるのです。そんな時は実力以上の作品ができます。

岡部 先生にとって仏師は天職ですね。好きな仕事に就かれる人は幸せです。

向吉 岡部さんも番組の中でいつも楽しそうに話しておられました。選挙の結果は残念です。

岡部 力不足でご期待いただけ

ここは 仏さまの世界

いた方には、本当に申し訳なく思っています。あんな楽しい番組を自分から卒業したいとは思わなかった。しかし、あの番組を取り巻く環境は少しずつ変化していました。同じ時代を共有していたスタッフも共演者も気がつくやうに年下になっていたり。世代交代をしている中で、奇跡的に高視聴率を続けているあの番組でお世話になった人々へ、恩返しをする立場になっていたんです。

— 立候補は自ら決断された。

岡部 年齢的には充分、下の世代を何らかの形で「育てる」域に入っていて、自然の流れと



工房で熱心に見学する 岡部さん